	tory of Academic resouces					
Title	映像産業における日中両国の相互交流の実態に関する研究					
Sub Title	Research on the current realities of mutual exchange between Japan and China in the visual					
	movie and animation industries					
Author	山下, 一夫(Yamashita, Kazuo)					
Publisher	慶應義塾大学					
Publication year	2020					
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)					
JaLC DOI	· · ·					
JaLC DOI Abstract	実写映画やアニメーション等の映像作品が、日本から中国へ、中国から日本へ、どのように輸出され、どのように輸入されているのか。また日本と中国の共同製作はどのように行われているのか。こうした問題は、機密性の高いビジネスの現場と密接に結びついていることもあり、外部からはなかなか窺い知ることができず、学術的な研究が進んでいたとは言いがたい。しかしその実態を解明し、分析を行うことによって、文化研究や産業研究の領域で重要な知見を得られるだけでなく、文化産業の分野における産学連携を促進させ、さらに今後の日中関係について実態に即した課言を行うことができるものとなる。そうした視点に立って、本研究では以下2点の調査・解明を行うことを目標として設定した。(イ)日本の映像作品の中国展開、および中国の映像作品の日本展開は、どのような内容の作品が、誰によって、どのようなプロセスで行われているのか。(2)そうしたプロセスは、どのような制度・技術・市場のもとで展開されているのか。1、日本の映像作品の中国展開、および中国の映像作品の日本展開は、どのような内容の作品が、推によって、どのようなプロセスで行われているのか。2、日本の調査・解明のために、具体的に行った研究方法は以下の通りである。(イ)当該分野に関わる様々な方々との意見交換やインタビュー。本来は日本国内だけでなく中国でも調査を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響で渡航規制が行われたため、一部の方については電話やメールなどでの実施となった。対象となった方の所属先としては、中国電影資料館、上口戯劇学院、SOAS、Arch社、ムーラン・プロモーション、アクセスブライト社などが挙げられる。(2)関連資料の収集と分析。映像作品のDVDを購入して検討した他、インタビューで言及された関連資料や先行研究を収集して分析を行った。研究を通して得られた知見については、慶應義塾大学で行ったシンボジウムと、研究代表者と分担者による複数の論文として発表を行った。研究を通して得られた知見については、慶應義塾大学で行ったシンボジウムと、研究代表者と分担者による複数の論文として発表を行った。研究を通して得られた知見については、慶應義塾大学で行ったシンボジウムと、研究代表者と分担者による複数の言といまいましまいましまいましまいましまいましまいましまいましまいましまいましまい					
Notes	and the second s					
Genre	Research Paner					
	Research Paper https://koara.lib.koio.ac.in/yooning/modulos/yooning/dotail.php2koara.id=2010000008.20100240					
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2019000008-20190349					

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2019 年度 学事振興資金(共同研究)研究成果実績報告書

研究代表者	所属	理工学部	職名	准教授	補助額	1,230	千円
	氏名	山下 一夫	氏名 (英語)	Kazuo YAMASHITA			717

研究課題 (日本語)

映像産業における日中両国の相互交流の実態に関する研究

研究課題 (英訳)

Research on the current realities of mutual exchange between Japan and China in the visual movie and animation industries

研究組織							
氏 名 Name	所属・学科・職名 Affiliation, department, and position						
山下一夫(Kazuo YAMASHITA)	理工学部·外国語総合教育教室·准教授						
駒形哲哉 (Tetsuya KOMAGATA)	経済学部·経済学科·教授						
吉川龍生(Tatsuo YOSHIKAWA)	経済学部·経済学科·教授						

1. 研究成果実績の概要

実写映画やアニメーション等の映像作品が、日本から中国へ、中国から日本へ、どのように輸出され、どのように輸入されているのか。また日本と中国の共同製作はどのように行われているのか。こうした問題は、機密性の高いビジネスの現場と密接に結びついていることもあり、外部からはなかなか窺い知ることができず、学術的な研究が進んでいたとは言いがたい。しかしその実態を解明し、分析を行うことによって、文化研究や産業研究の領域で重要な知見を得られるだけでなく、文化産業の分野における産学連携を促進させ、さらに今後の日中関係について実態に即した提言を行うことができるものとなる。

そうした視点に立って、本研究では以下2点の調査・解明を行うことを目標として設定した。

- (1)日本の映像作品の中国展開、および中国の映像作品の日本展開は、どのような内容の作品が、誰によって、どのようなプロセスで行われているのか。
- (2) そうしたプロセスは、どのような制度・技術・市場のもとで展開されているのか。

上記の調査・解明のために、具体的に行った研究方法は以下の通りである。

- (1) 当該分野に関わる様々な方々との意見交換やインタビュー。本来は日本国内だけでなく中国でも調査を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響で渡航規制が行われたため、一部の方については電話やメールなどでの実施となった。対象となった方の所属先としては、中国電影資料館、上海戯劇学院、SOAS、Arch 社、ムーラン・プロモーション、アクセスブライト社などが挙げられる。
- (2)関連資料の収集と分析。映像作品の DVD を購入して検討した他、インタビューで言及された関連資料や先行研究を収集して分析を行った。

研究を通して得られた知見については、慶應義塾大学で行ったシンポジウムと、研究代表者と分担者による複数の論文として発表を行った。

2. 研究成果実績の概要(英訳)

How are visual works such as live-action movies and animations exported and imported from Japan to China and vice versa? How is co-production between Japan and China proceeding? Since these topics are closely related to highly confidential business activities, the situation is difficult to clarify from the outside and progress in related academic research is sparse. However, by analyzing and clarifying the actual situation, it is not only possible to obtain important knowledge on the fields of cultural and industrial research, it is also possible to promote industry-academia collaboration in these cultural industries and make proposals, grounded in current realities, for the future of the Japan-China relationship.

From the above points of view, the purpose of this research was to investigate and analyze the following two points:

- (1)What kind of people, organizations, content and processes are involved in the production and distribution of Japanese video works in China and vice versa?
- (2)Under what kind of systems, technologies, and markets, are

the above processes being developed?

The specific research methods employed for the above investigation and analysis are as follows:

(1)Interviews with related parties

Although the original research plans included in-person interviews in China as well as Japan, some interviews were conducted by phone or email due to the restrictions on travel implemented following the spread of the new coronavirus.

(2)Collection and analysis of related materials

In addition to purchasing and analyzing DVDs of video works, we collected and analyzed the related materials and literature mentioned during the interviews.

The findings obtained through this research project were presented through a symposium at Keio University and in several papers authored by the research director and co-investigator.

	3. 本研究課題に関する発表							
	発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)				
山下	一夫(ほか1名)	日本のアニメビジネスと中国	『アニメの社会学――アニメファンと アニメ制作者たちの文化産業論(ナカニシヤ出版)	2020 年 6 月(予定)				
吉川	龍生	記録と創造、そして中国独立映画 のこれから——日吉電影節 2018 黄 驥・大塚竜治監督との対話から	『日吉紀要 中国研究』第 13 号	2020年3月				